

# mono

CONTENTS

2015.5-16No.737

©WPP (禁・無断転載)  
AD・表紙デザイン:若山トシオ  
DTP:ベイス、ナギ  
表紙写真:篠田麦也

046



特集担当者のおすすめ!



エレコムからミリタリーテイストを採り入れたカラーとオリジナリティあふれるフォルムが特長のハイレゾ対応イヤホン「EHP-CH3000」が登場した。かつてのマイクロフォンがモチーフのデザインはまさに無骨そのもの。またザクッぽい色合いがグッとくる! 詳しくはP56を見るべし。

エレコムからミリタリーテイストを採り入れたカラーとオリジナリティあふれるフォルムが特長のハイレゾ対応イヤホン「EHP-CH3000」が登場した。かつてのマイクロフォンがモチーフのデザインはまさに無骨そのもの。またザクッぽい色合いがグッとくる! 詳しくはP56を見るべし。

# 音楽

偏愛

ハイレゾと美音の仲間たち

# 主義

オーディオ趣味は底なし沼だ。しかし、その表層をすくい取るだけでも楽しめる、フトコロの深い趣味でもある。最近では、スマートフォンでハイレゾ音源を聴いたり、ブルートゥーススピーカーで好きな場所でお気に入りの音楽を聴いたり、さまざまなライフスタイルの中でデジタル音楽を楽しんでいる人々が増えてきている。その一方で、巷ではアナログレコードを見直す動きも活発だ。徐々に盛りあがりを見せているオーディオ界。そこで、今回のモノ・マガジンでは「毎日の耳の滋養」ともいふべき音楽とオーディオを大特集! ハイレゾもアナログレコードもいい音を聴きたいという目的には変わりない。明日からの音楽趣味を3段階上げるギアとノウハウをズバリ紹介する!

048 ..... ハイレゾの良さを知るには歌謡曲を聴くべき

松田聖子 & 小泉今日子を聴く!



050 ..... ハイレゾ再生の第1歩  
ハイレゾプレーヤー

052 ..... 圧倒的な高音質  
ハイレゾ対応ヘッドフォン

054 ..... ハイレゾの魅力を引き出す  
ハイレゾ対応イヤホン

058 ..... ヘッドフォン&イヤホンの良き相棒  
ポータブルアンプ

060 ..... ダイナミックな再現力  
重低音系ヘッドフォン

元祖ヘッドフォン女子インタビュー

062 ..... ワタシのお気に入り  
ヘッドフォン教えます



064 ..... ハイレゾはもうスマホで聴ける!  
ハイレゾ対応スマートフォン

MUST BUY  
AUDIO  
GEAR  
CATALOGUE



074 ..... アナログレコードブームの立役者  
ION AUDIOがオモシロイ!!

075 ..... カセットデッキ、再考






【連載】

モノ・モール

新製品 mono mall

新製品はパワーだ！ 各メーカー、担当者たちが鎬を削り生み出す製品には、唯一無二の機能や哲学が反映されている。こだわり満載の新製品の中から、モノマガの視点で選んだアイテムをピックアップ。トレンド情報あり、お試しレポートあり、注目スポット探訪ありのてんこ盛りでお届け！

018





時が止まって。文と構成／河村喜代子

大きく使って、小さくしまうかたち【折りたたむ道具】

米陸軍の「P-38」には缶切り以外に38とおりの使い道がある。半分はこじつけだ。英国軍は兵士たちに「ハウスイフ」を持たせた。正体は針と糸とボタンである。ふだんは隠れている力が展開される時、道具を使う楽しさがある。キャンプ道具が使って楽しい理由に通じている。

040





【特集】<sup>うま</sup> 美し&旨し国を再発見。

魅惑のイタリア新事典

2015年5月1日、いよいよ半年間に及ぶ“ミラノ万博”が開幕した。イタリアといえば、美男・美食・美景の国である。この機会に「そうだ、イタリア行こう！」……と思いつく前にまず、この特集をご一読あれ。イタリア、イタ車に席巻されたバブル時代より今のほうが、イタリアの本当の魅力が見えるはずだ。

116



【特集】一度ハマれば、一生涯の趣味となる!

男の木工 D. I. Y.

自分で描いて、作って、達成感を味わって、使って満足、それがDIY。たとえ失敗しても味となり、その面白さにハマってしまうと、一生涯の趣味となるのがDIY。高度な木工技を手軽に安全にかなえてくれる電動工具、週末に気軽に利用できる木工教室など、あなたの身近なDIYワールドを紹介する。

144

テイ스팅モノ	007	スタイリングモノ	135
mono編集部モノ差し	010	新連載 シロラボ	154
う〜ん、うなるモノ	016	帰ってきたトワイライトゾーン	158
モノ進化論	076	A Boy Days	160
怪奇骨董新書箱	082	新連載 電子写真機恋愛 第一夜	162
コンビニの力	091	新連載 みんなの時計	180
蘆薈の筆筒	103	読者プレゼント&インフォメーション	167
たかみひろしのシネマショウ2	105	バックナンバーリスト	170
monoshop新聞	107	次号予告	171



# KATHARINE HAMNETT LONDON × KARRIMOR SF

## 第2弾別注モデル キャサリン・ハムネット カリマーSF

キャサリン・ハムネット・ロンドンとカリマーSFのコラボによる別注モデル第2弾の登場だ。初回がアースカラーを基調としていたのに対して、今回は初夏に似合いのロイヤルエアフォースブルーである。バックの種類は2タイプがある。カリマーSFの「セイバー30」(写真右)と「デルタ25」(写真左)

である。容量的には5ℓの違いだが、縦型シルエットのセイバーに対して、デルタは涙滴型でイメージは大きく異なる。しかも、アウトドア用フロダクトで定評のあるカリマーによるミリタリーラインだけあって、カリマーSFは顔もいいが、バック機能がハードなつくりで信頼できるのだ。

キャサリン・ハムネット・ロンドンとカリマーSFによるダブルロゴ。本体素材はリップストップ。引き裂き強度と耐水性に優れる。  
【セイバー30】容量:30ℓ、サイズ:高さ55×幅30×マチ20cm、重量:1.1kg

【デルタ25】容量:25ℓ、サイズ:高さ50×幅30×マチ15Dcm、重量:1.2kg  
取扱は5月上旬よりKATHARINE HAMNETT LONDON SHOP他、オフィシャルオンラインショップ&ZOZOタウンにて。

◎キャサリン・ハムネット プレスルーム

☎03-5784-3327 <http://www.katharinehamnett.jp/>



Delta 25 価格2万5920円

Sabre 30 価格2万520円

# ミリタリーラインに新風を送る。

## Tasmanian Tiger First Responder 2 タスマニアンタイガー ファーストレスポナー2

価格6万9120円

メディックバックならではの  
臨機応変な対応能力を有する。



素材: コーデュラ700D、容量: 40ℓ  
サイズ: 高さ56×幅37×マチ24cm、  
重量: 3.9kg、色: カーキ  
◎トランパーズ  
☎03-5380-8306  
<http://www.tasmaniantiger.jp/>

ドイツのタスマニアンタイガーは、ミリタリーおよびセキュリティのプロ向けにバックをつくってきたブランドだ。ここにある「ファーストレスポナー2」のバックは、まるで船艀箱である。引き出しこそないものの、収納部は細かく区分され、ポケットや固定バンドや透明ポケットが用意されている。

使いたいものを迷いなく取り出せるようになっていいる。このモデルは、簡易野戦病院での使用を想定しており、兵士が持つファーストエイドキットや前線の衛生兵ではできないより高度な手当を可能とする。質、量ともに充実した薬品、医療機器の収納が可能だ。またドイツ連邦軍にも採用されている。

# mono Mall

新製品

モノ・モール

一人ひとりの背中に合わせて、リュックの背負い心地を調節できる、世界初の「SAシステム」の開発など、背負って行動する、時の快適性を追求する英国のカリマー。リュックだけではなく、それを受け止めるハイスベックなジャケットも同様だ。肩部分はラグランスリーブを採用。縫い目が肩のラインを避けているため、リュックのハーネスとの摩擦からくる負担を軽減する。またベンチレーションとしても機能する各ポケットもシールドハーネスやヒップベルトに干渉しないよう、ジップの位置を考慮したデザインだ。素材は優れた防水透湿性能をもつのが特長で、内側がドライタッチ、一般的な2.5層生地と比較してもヘタつき感が少ない。ビビッドなマルチカラーのほか、ベーシックなネイビー系など全6色展開。

文〆井上清 写真〆熊谷泰久(WPP)



## カリマー ファントムジャケット

価格2万520円

機動性に優れた高機能レインジャケット。生地には防水透湿素材「PERTEX SHIELD」を採用。

◎カリマー・ジャパン

☎03-3221-6883

<http://www.karrimor.jp/>

# デイパツクの相棒



# ジョナサン35周年目の アニバサリー的メニュー

今年35周年を迎えたジョナサンで目下、好評開催中なのが日本全国各地の厳選素材を集めた「ニッポン・ジョナサン、ごちそうさん」フェアだ。ジョナサンといえば素材へのこだわり、食文化の発信をコンセプトに、これまでも希少性の高い日本の食材を積極的に紹介しているが、そんなジョナサンが今回、フェアのために選んだのが写真で紹介している5品。鮮やかな美しい色に惚れ惚れする赤身ステーキも魅惑的だが、モノマガが注目したのは秋田・稲庭うどんと、この3月に国立公園に指定されたことでも話題の鹿角島・甕島産のきびなごだ。

稲庭うどんは日本三大うどんのひとつで、江戸時代から350年受け継がれる伝統技術で大切に1本ずつ人の手づくりが続けている。約30工程を3日間かけて丁寧につくれるが、それ

## 秋田無限堂 稲庭うどんのしそ薫るジェノベーゼ

価格970円

稲庭うどんをしその香り豊かなソースと絡めた冷製パスタ風のアレンジはまさにジョナサンならではの。生ハム、野菜と一緒にどうぞ。



## 各地の生産者たちとがっちりタッグ！



試食会には稲庭うどんを提供する秋田の無限堂・大島千明社長(写真左)と、きびなご提供の甕島漁業協同組合・里加工センターの大良一徳工場長(同右)も駆けつけ、すかいらーく谷CEO、御園さんと4人でガッチリ握手。



350年の伝統技術・手鉤製法でつくられた稲庭うどんのコシが凄い！ツルツルいけちゃいます！

## 秋田無限堂 稲庭うどん 比内地鶏のつけ汁仕立て&しらすの2色丼

価格1294円

コシが強く、のどごしもなめらかな秋田無限堂の稲庭うどんを、比内地鶏入りのコクのあるゴマ味噌つゆと、だしのきいた麺つゆの2種類で味わう贅沢メニュー。個人的にはさっぱりさとガッツリさが共存したゴマ味噌つゆがオススメ。愛媛県産のしらすのをせた丼も、うどんと一緒に箸すすみまくりだ。



## 国産牛の赤身ステーキ

価格1726円

ヘルシーで肉の味を楽しめる赤身肉を常時提供。「産地リレー方式と、グリドルで焼いた後3分間寝かせ、肉のなかにうまみをとどめています」とメニュー開発担当・御園博さん。

全国の極上牛がリレー形式で登場！



## 陸奥湾産子持ち帆立のグリル&ハンバーグ 価格1186円

人気のハンバーグに、甘みがギュッと濃縮された帆立のグリルを添えて。帆立が子持ちであるのもポイント。食欲そそるガーリック醤油仕立て。



# 本誌記者も実食!!



クセのないうこりコリ食感の真鯛と、口のなかでプチプチ跳ねるきびなごの感触がサイコー！

## 長崎産真鯛 焼き鯛めしの出汁茶漬け膳

価格1294円

刺身でも食べられる長崎産の新鮮な真鯛を、そのうま味をより楽しむためにあえて店でひと手間かけた鯛めし仕立てに。出汁をかけると、お茶漬けとしてふたつの味が堪能できる。奥に控えるきびなごサラダも、やや甘みを含ませたタレによって、より唐揚げにしたきびなごの味が引き立つ仕上がりに。



## 特別プレゼント!! 12名様にお届け!!

親日家でもあるバヴロさんから、今回特別に読者プレゼントを頂戴した。ご希望の方はP.167の要項に沿って、①の希望を「SAKURA2014」とご記入下さい。

フランスはワインの名産地  
ブルゴーニュから

## バヴロさんの畑



ブルゴーニュ地方のマランジェで、「ドメーヌ・シュプロ」を手掛けるワイン生産家のバヴロさん。彼の手掛けるワインは高い評価を受け、日本の愛好家たちから評判になっている。

見る者を魅了する艶やかな桜色のロゼ・ワイン。これは世界的にもワインの名産地として知られるフランスのブルゴーニュ地方のワイン生産家・バヴロ氏が手掛けたワインで、その名も「SAKURA」。このワインが生まれた訳にはとある物語があった。バヴロ氏の奥様は日本人のかおりさん。彼女から聞いた日本の桜の美しさに魅了され、バヴロ氏はこのワインを作る事を思い立ったという。しかもこのロゼ・ワインは単なるロゼ・ワインではなく、特別に作られたキュベ。ロゼは

## 日本の皆様には是非！



奥様のかおりさん(写真左)が以前から秘めていた「日本の桜をイメージしたワインを作りたい」というアイデアを聞いたバヴロさんは、その美しい情景を思い浮かべながらワイン生産に取り組んだという。



フランスはワインの名産地  
ブルゴーニュから

フランスから日本へ



サクラを感じる  
ロゼ・ワイン

写真/熊谷義久(WPP) 文/モノマガジン編集部

## SAKURA2014



品種はピノワール100%で短期間寝かせた後、古い樽で発酵・熟成させている。味はまろやかにして芳醇。鳥の胸肉や、燻製サラダ、魚介のピヤペーヌなどと合わせるのに最適。もちろん、和食との相性も抜群だ。価格3132円  
◎オーレ・ジャパン ☎03-6712-2061 http://www.olet-japan.com/



# 小泉今日子

を試聴

サイコー!



**HD-Music.2014年間総合ランキング  
ハイレゾアルバム部門**

- 1.「シングルコレクション プラス『ハチボチ』」坂本真綾
- 2.「MBS・TBS系TVアニメーション マクロスF(フロントア) O.S.T.1 娘フロ。」菅野よう子
- 3.「ロックンロール・ハネムーン」くるり
- 4.「COVER 70's」柴田淳
- 5.「COWBOY BEBOP」シートベルツ

渚のはいから人魚

価格540円

1984年発売の「チリン♪チリン♪」のはじまりが懐かしい、初オリコン1位獲得曲。この楽曲でNHK紅白歌合戦に初出場を果たした。ゆとりのある低音に奥行き感のある弦の音が聴きどころ。



**ナマの打楽器の音が凄い!**  
続いてはもうひとりの'80sアイドルの代表・キョンキョンのハイレゾ音源を聴きに、長らくレコーディングで小泉サウンドに携わってきたピクスタースタジオへ。なんと、当時、レコーディングエンジニアを務めていたピクスターエンジニアメント・高田英男さんのアテンドで、「真っ赤な女の子」をはじめ、当時の大ヒット曲6曲を試聴室でリスニングした。髪型やファッションも含め、80年代カルチャーをけん引したキョンキョンだが、

楽曲も超バワフルで個性。'80年代はインパクトのある派手な音が求められていた時代。各楽曲のコンセプトが明確で、音の方向性にもブレがありません。ハイレゾで聴くと、とくに低音域の量感がしつかり出て、CDではややキツめな印象が、より素直でやわらかく心地よい音に聴こえてきます。当時の空気感は時代を超えても……なるほどね、という音と高田さんも満悦だ。なかでもナマの打楽器が収録されている楽曲は、音にうるさいオーディオツウのハートもワシつかみ必至。新鮮、発見、感動ありのキョンキョンサウンドに明日への元気をもらっちゃおうだい!

「昨年から20代、30代にもハイレゾが好評です。キョンキョンはオススメです」(ピクスタースタジオ・高橋浩さん)。



「ハイレゾでキョンキョンサウンドが自然にしっかり聴こえてきます」(サウンドプロデューサー・高田英男さん)。

Fade Out

価格540円

音楽的にも面白いのが、近田春夫が当時、ハウスミュージックを大胆に取り入れたこちらの楽曲。1989年5月、タイトな音のグルーブ感やベースの太いサウンドが、ハイレゾでより新鮮に。



あなたに会えてよかった

価格540円

大ヒットドラマ「パパとっちゃん」の主題歌で、1991年発売。小林武史が作曲、プロデュースをてがけミリオンヒット。'80年代とは正反対のキョンキョンの優しいボーカルに癒される。



# ハイレゾの良さを知るには 歌謡曲を聴くべき

音楽を愛するアナタ、正直、歌謡曲を甘くみていないか?一度ハイレゾで聴いてみなければ。魅惑の'80sアイドル試聴会へようこそ!



ライター 下川

聖子ちゃん&キョンキョンの試聴会とあって、今回はやはり正装にて。同日の午前午後で2つの試聴会を体験して幸せな1日だったなあ。

※ジャケット写真はソニー・ミュージックダイレクト提供



**The 9th Wave (全10曲)**  
価格3200円  
尾崎亜美や吉田美奈子ら女性作家陣を起用した11枚目のアルバム。1985年発売。“独身最後のアルバム”とも話題になったが、大人への変化を感じさせるやわらかサウンドに癒される。

シビレル……



風立ちぬ (全10曲)

価格3200円

歌手としてのターニングポイントになった作品で、1981年発売。なかでも収録の「風立ちぬ」はすべての楽器の音が聴こえ、ボーカリスト・聖子の成長も伝わるハイレゾ・イチャオシ曲。

目の前に松田聖子出現!?!  
某量販店のハイレゾ体験コーナーで、何気に聴いた松田聖子の「赤いスイートピー」にシビレまくってしまつた。'80sラブなエムエーワン男。正直、ハイレゾといえば、クラシックやジャズだと思つていたが、歌謡曲も大アリだ!というわけで、楽曲を配信するmora

**ハイレゾ音源は“mora”で配信中!!**  
<http://mora.jp>

配信楽曲数約 560 万曲、そのうち現時点でハイレゾ音源を約 8 万曲を提供する音楽配信サイト。アーティストや楽曲の魅力をあますことなく伝えるため、さまざまなイベントも展開。ちなみに、松田聖子のレコーディング秘話もWeb掲載されているので、ぜひ、ご一読を!



Pineapple

価格3200円

僕らの青春「赤いスイートピー」が収録された5枚目のアルバム。1982年発売。あたかも目の前で当時の聖子ちゃんが歌っているかのような「赤いスイートピー」にはマジでシビレル!



Canary (全10曲) CSCL-1272 価格3200円



「松田聖子さんはソニーミュージックの技術の歴史です」(ソニー・ミュージックダイレクト 鈴木則孝さん)。

15枚目のシングル「瞳はダイヤモンド」/ 蒼いフォトグラフ」などを収録した、バラードの多いアルバムで1983年発売。やわらかで広がりのある聖子サウンドをハイレゾでリアルに堪能できる。

# 松田聖子

を試聴



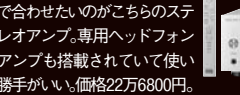
**mora2014年間総合ランキング  
ハイレゾアルバム部門**

- 1.「XScape」マイケル・ジャクソン
- 2.「THE BEST “Blue”」Kalafina
- 3.「ベスト・コレクション〜ラブ・ソングス&ポップ・ソングス〜(MQS)」中森明菜
- 4.「ハイレゾクラシック the First Selection」Various Artists
- 5.「THE BEST “Red”」Kalafina

HAP-Z1ES



上のHAP-Z1ESとぜひセットで合わせたいのがこちらのステレオアンプ。専用ヘッドフォンアンプも搭載されていて使い勝手がいい。価格22万6800円。



TA-A1ES

SS-AR1



今回の視聴に使用したソニーの最高級トールスピーカー。さすがは試聴ルームだが、情感豊かすぎる音質に脱帽。価格91万8000円(1本)。



「ハイレゾはぜひ、スピーカーで鳴らして聴いてほしいですね」(ソニー・ミュージックダイレクト 榎本健男さん)。

(オーディオ) @ソニー買い物相談窓口 ☎0120-777-868



# iBasso Audio DX-90j

オープン価格(実勢5万円前後)  
iBasso Audioカスタマーサポート  
☎03-6367-5691

### SPEC

対応ファイル形式:DSD、FLAC、WAV、AAC、ALAC、MP3 内蔵メモリ:8GB  
対応メディア:microSD(最大128GB)  
入力端子:USB microB 出力端子:ヘッドフォン/デジタル/ライン出力 電池持続時間:約8.5時間 サイズ:幅64×高さ17×奥行100mm 質量:140g



男の道具感が伝わってくる、いい意味で地味なスタイリング。インターフェースの数も種類も必要充分だ。

## コストパフォーマンスに優れた実力派

10万円超えのモデルが多い中、『DX-90j』の実勢価格は5万円台とリーズナブルだ。その分、機能面が落ちるのでは……という心配は要らない。DSDは2.8MHz(DSD64)、PCMは24bit/192kHzまで対応しており、スタ

ンダードなハイレゾ音源は手を加えずに鳴らせる。DACも1/Vコンバーターもアンプも左右独立と凝った作りで、アンバランス接続専用ながら高いセパレーション性能を誇っている。女性ボーカルの歌声は鳥肌まっただ。



ヘッドフォンプラグとの接触性に優れた真鍮切削パーツをヘッドフォンジャックに採用。



音楽偏愛主義

# Acoustic Research AR-M2

価格14万9040円  
iBasso Audioカスタマーサポート  
☎03-6367-5691

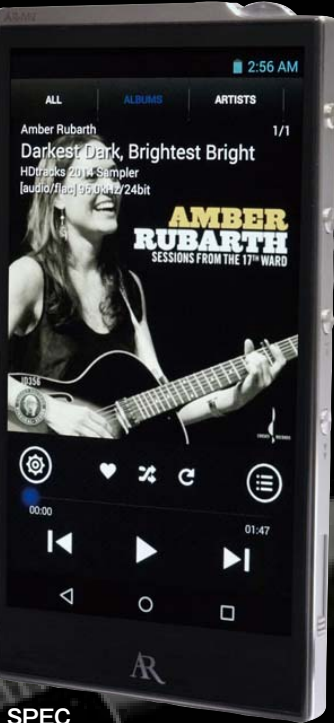


USB-OTGストレージ対応。大容量の外付けHDDと組み合わせて、据え置きプレイヤーシステムを構築できる。



## 一見してスマートフォン 実はハイエンドプレイヤー

薄いボディに全面タッチパネル。インストールされているOSはAndroidだし、起動したときの画面もプレイヤーが優先されるとはいえAndroid的。一見してスマートフォンかと思ってしまう。ところがサウンドはプロフェッショナルライクなモノだった。『AR-M2』にプリインストールされているプレイヤーは、Android内部のデジタルミキサーを通さず、DDC&DACがデコードした音を直接アンプ回路に届けることが可能ゆえ、Androidベース機とは思えないほど高音質だ。



### SPEC

対応ファイル形式:DSD、FLAC、WAV、AAC、ALAC、MP3 内蔵メモリ:64GB 対応メディア:microSD(最大128GB) 入力端子:USB microB 出力端子:ヘッドフォン/ライン出力 電池持続時間:約9時間 サイズ:幅70×高さ15×奥行136mm 質量:240g

傷つかないように使っていくには、オプションの専用レザーケースに収納するといひ。厚手のカバーでディスプレイと背面を守ってくれる。

オープン価格(12万9000円前後)  
☎ソニー買い物相談窓口☎0120-777-886

## 満を持して送り込まれたオーディオのソニーの刺客

先陣を切ってハイレゾムーヴメントを牽引するソニーは、誰でも手に入られる低価格帯のハイレゾウォークマンを中心にリリースしてきた。しかし次々と海を越えてやってくる海外メーカーには負けられないと感じたのか、ついに実勢価格12万円台のハイエンドモデルを戦場に投入してきた。ウォークマン史上最高音質を実現した『NW-ZX2』は、大型で安定感の高いヘッドフォンジャックや大型の音響パーツを内包するアルミ削り出しフレームを採用。コスト高となっても妥協はなし。さすが「オーディオのソニー」と言えるだけの作り込みをしてきた。輪郭を太くしっかりと描く傾向があり、音の粒立ちがいい。フルデジタルアンプ・S-Master HXとアップコンバート機能・DSEE HXにより、MP3音源も活かせるのが嬉しい。96kHz/24bitのクオリティをワイヤレス転送できるLDAC技術にも注目したい。

# TEAC HA-P90SD

オープン価格(実勢7万7000円)  
ティアックAVお客様相談室  
☎0570-000-701

## プレーヤーとしてもアンプとしても使える2WAY機

数あるハイレゾプレーヤーのなかでも、マルチな使い方ができるのが『HA-P90SD』だ。単体で使うとPCMは192kHz/24bitまで、DSDは128(5.6MHz)までのハイレゾ音源がネイティブ再生できるプレーヤーになるが、iOS/Android/PCとの接続機能もあり、スマホのストレージに保存したハイレゾ音源を鳴らすポータブルアンプとしても運用できる。ディスクリート構成のヘッドフォンアンプ部は、最大600Ωまでのプロ仕様ヘッドホンでもドライブできる駆動力があり、4段階のアッテネータ/2段階のゲインでパワーを調整可能だ。電力消費が激しいDSDでも最大6時間の連続再生が行えるほど、バッテリーはタフ。求められる機能をすべてつぎ込んだ汎用性の高いモデルだ。

### SPEC

対応ファイル形式:DSD、PCM、FLAC、WAV、AAC、MP3 対応メディア:microSD(最大128GB) 入力端子:USB A/USB microB/光/同軸デジタル/アナログステレオミニ 出力端子:ヘッドフォン/デジタル 電池持続時間:約6時間 サイズ:高さ69.6×幅21.5×奥行123mm 質量280g



ボディ各所に物理的コントローラを装備。画面を見ずとも操作できる仕様になっている。

# ハイレゾ再生の第1歩 ハイレゾプレイヤー

ハイクオリティな音源ファイルを再生可能な、新世代のモバイルプレイヤー。アンプのドライブ力も高く、単体でもサウンドはリッチ。



レザーの専用ケースが付属する。ケース装着時も操作性は高いままコントロールできる。



### SPEC

対応ファイル形式:DSD、PCM、FLAC、WAV、AAC、ALAC、MP3 内蔵メモリ:256GB 対応メディア:microSD(最大128GB) 入力端子:USB microB 出力端子:ヘッドフォン/デジタル/バランス 電池持続時間:約9時間 サイズ:約幅66×高さ17.5×奥行107mm 質量275g

# Astell&Kern AK240 Stainless Steel

価格38万4000円

☎アユート サポートセンター☎0570-002-220

## ケースの素材の違いが音にも影響するという事実

直販価格で29万円というプライスに驚き、その音を耳にしてさらに驚愕するオリジナル『AK240』との違いは、ケースの素材のみ。内部構造は一切変わらず、オリジナルモデルのジュラルミン削り出し筐体+カーボンプレート+ゴリラガラスから、『AK240 Stainless Steel』はステンレススチール+カーボンプレートを身にまとうようになった。マテリアルを変えての限定モデル？ それは違う。あくまでサウンドをより引き締め、リファレンスモデルとしての立場を明確にするための施策だ。特に変わったのが低域。早弾きのベースの動きも目に見えるかのようで、腰を落ろしたかのような安定感が生まれている。中高域の明瞭感も増している。他の素材だとどんな音になるのだろうか。気になってくる。



モダンな現代建築がそれともオブジェか。ライカカメラのデザインを手がけたデザイナーの手によるスタイリングはインパクト大。



### AK240

クラシックを聴くならAK240 Stainless Steelがいい。しかし華やかさはオリジナルのAK240も負けてはいない。



大事なものは一に家族、  
二に恋愛、三にオシャレ。

italiano【イタリアーノ】; イタリア人

1日に3回着替える。夏休みは大人も3週間は取得する。

生涯現役、高齢になってもナンパは当たり前♡

ほかの地域の人との結婚は“国際結婚”感覚。

クルマの教習は路上教習からスタート!

ポケットチーフをした  
“ちょいワルオヤジ”はほとんど見かけない。

知ってるようでよく知らない

## イタリア人のホントのところ!?

オシャレで陽気、美食家で恋愛にも強いオールラウンダー。  
それがニッポンにおけるイタリアーノのイメージだ。ローマで生まれ育った料理研究家でモチベーション・スピーカーであるベリッシモ・フランチェスコ氏に真偽のほどを直撃した!

ベリッシモ・フランチェスコ氏  
料理研究家  
1979年、ローマ出身。2001年に来日し、東京で暮らしながら、お洒落な料理研究家としてイタリアと日本の文化の橋渡しとなり活躍。クッキングイベントや食生活、トークショーも行っている。またタレントとしても数々のテレビ番組に出演。

「イタリア人はとても楽楽家である。話好き。それに男女ともに情熱的だから、90歳のおじいちゃんか80歳のおばあちゃんをナンパしてもだれも驚かないよ。男は女性に花を贈る? 嘘じゃないけどそれは、複数のガールフレンドの中で『キミは特別』と思わせるためのテク。間違えないでよ(笑)。自分のプラスになることが優先されるから、ファッションと部屋の掃除は好きだね。みんながオシャレというのはホント。コーディーネーターも考えて朝昼晩の3回は着替えるね。でも、シャツの衿を胸元まで開いて着るちょいワル系の着こなしは、いったいいつの時代のイタリアンスタイルなの!? 私も知りたい! 約束の時間にいい加減? それは当たり前(笑)。ただ日本人も終業時間を守らずいつまでも仕事をしているでしょ。そういうルーズさ、では似ているんじゃない? (笑)。あとイタリアは、国の一員というより州の一員であることに誇りを持っているね。例えばサッカーならイタリア代表より地元チームの試合の方が大事だし、ローマの女性がミラノの男性と結婚したら国際結婚と同じようなものだよ! もちろん州によって文化も料理も変わる。実はバस्ताとピザだけじゃありませんよ、イタリアは。魅力はひと言ではいい尽くせない! だから旅行すると面白いんだよ」

「休む」権利を大切にすることが約束の時間にはルーズ……

部屋の掃除は大好きだが街の美化には疎い……

cinema【チーネマ】; 映画



「イタリアは呼んでいる」

2014年に米国で単館上映されたところ評判となり一気に全米公開、ロングランを記録したヒット作。Bunkamuraル・シネマほか全国順次ロードショー。

つかの間のDolce Vitaを連れてくるのは

いつだって映画だ

イタリアを舞台にした映画は枚挙にいとまがない。アナタはどの作品を思い出すだろう。『ローマの休日』か『ニュー・シネマ・パラダイス』か、フェデリコ・フェリーニの『道』、はたまた『自転車泥棒』か……。イタリア映画はときに甘くときに苦く、市井の人々の悲喜を克明に表現しながら、イタリアの陰と陽を映し出してきた。さて今、どの作品を選ぶか。いずれも名作揃いなのだが、何度も言おう、今日イタリアで人々は美食を堪能し、Dolce Vitaに酔いしれている。美味しい映画を通じて、ここニッポンにいなながらそのご相伴に預かりたい。美味い映画を通じて、ここニッポンにいなながらそのご相伴に預かりたい。

© Trip Films Ltd 2014



ピエモンテのワイン畑からカプリ島まで。ミニクーバーは英国の中年男ふたりを乗せて、イタリアの田舎町を駆ける。極上のイタリア郷土料理と、アマレフィ海岸などの絶景。キャリアと人生の岐路に差し掛かる中年男ふたりの焦り、悲哀、いささか暑苦しいほどのユーモアと毒舌が、ピリリと効くスパイスだ。

うま

美し&旨し国を再発見。

イタリア〜ン、トレビア〜ン!

# 魅惑のイタリア新事典



イタリアといえば、美食の国である。美景の国でもある。人は陽気だし、クルマや自転車など、作るモノだって美しい。日本では1980年代〜90年代はじめ、いわゆる「バブル時代」には「イタメシ」「イタ車」がカッコよさの象徴だった。ところがそのステレオタイプな「イタリア」の取り入れ方では、本当の魅力には気付かなかったはずだ。ときは2015年、ミラノ万博で再び世界から脚光を浴びるイタリア。まずはここで魅惑的なイタリアの一端に触れ、今こそ「そうだ、イタリア行こう!」と膝を打っていただきたい。

写真/田口陽介 文/安藤政弘、モノ・マガジン編集部



esposizione【エスポジツツイオーネ】; 博覧会

ミラノに世界中の“食”が会す



【開催情報】

ミラノ国際博覧会

開催地:イタリア・ミラノ  
会期:2015年5月1日~10月31日  
参加国等:148カ国・地域・国際機関(2015年1月時点)

ニッポンは最大規模で堂々出展!



食文化はイタリアに負けず劣らず豊かな日本。参加国中最大規模のブースは6つのシーンに分けられ、展示のほかワークショップ、パフォーマンスなどによって、多様な食と「いただきます」「ごちそうさま」の精神といった日本ならではの食文化を世界に届ける。ちなみに特別大使を務めるのは、働き者のハローキティ。



注目ブースのひとつが、デザイナーの佐藤オオキ氏によってディレクションされた「クールジャパンデザインギャラリー」。日本全国の伝統工芸製造技術と、佐藤氏のデザインが融合し「クール」なプロダクトに生まれ変わった工芸品の数々が、「陰翳礼讃」をモチーフとした食卓に並び、日本の技術をアピールする。



## 20世紀のアボリア

1930年代、米国の家庭雑誌に毎月、美しい新婚カップルが登場した。食卓のふたりは、ハリウッド映画のように見つめ合う。

夫は言った。「素晴らしいスパゲッティだったよ！ソースが絶品だね！お袋の味だ！」。新妻は、大切な秘密を明かすように、そっとつぶやいた。「あなたには、嘘をつき

たくないの。あのスパゲッティは調理済みのよ。」「温めて出すだけでいいの」。若い夫は、妻の正直さも合わせて、ますます彼女の「お袋の味」が好きになった。

そんな幸福な食卓シーンを背景に、宣伝文は謳いあげた。「家で作るスパゲッティよりも、断然美味しい！」。「ママが作ってくれた味は」「幸せだった少年時代とともに、男

出す大量生産品である。しかし、それでは「お袋の味」であると標榜する。これは矛盾だ。なぜなら、お袋の味は一回性のものだ。

それに対して、大量生産品とは反復性のものであり、複数性のものである。本来、両者はなじまない。したがって、お袋の味を名の大量生産品はそれ自体、自己矛盾である。これは一体どうしたことか？もちろん、これは大量生産品ならではの矛盾である。科学的知見と最新技術を活用してできあがった最高級のスパゲッティソースが、実は、その高品質の係数として「自家製」という尺度をもちだしているからだ。大量生産品であるにもかかわらず、「自家製のコクがあり、そのきめ細かさは自家製以上」とであると謳いあげているからだ。

20世紀、食の神話は二層からできている。かたや「お袋の味イデオロギー」という固有性、かたや「大量生産品」という反復性。この両者が一体化する。20世紀ならではのきことだ。おなじスパゲッティでも、19世紀までの伝統的なそれとは内部構造が根本的に違うのである。

[Better Homes & Gardens 1941-3]



言わずと知れた、イタリアの国民食である。日常生活に根ざしているからこそ、そこには物語が生まれる。小誌連載「モノ進化論」でおなじみ、原克教授による進化論スピノフ版でしばしば、マンマの味に思いを馳せたい。

# 進化論

# ピザとパスタの

これを食わずしてイタリアを語れるか！

## cucina【クチーナ】;イタリア料理

### いにしえのファストフード

「ピザは、熱いうちが美味しい。冷めたピザなんかまっぴらだ」。

米国ポピュラー系科学雑誌『ポピュラー・メカニクス』1973年2月号は、宅配ピザの愛好家たちの、こんなワガママに応えている。

一般、気のきいたグッズが、市場にあらわれたというのだ。新製品を報じる短評記事は、「冷めたピザよりひどいものなど存在しない」と題されている。かなり大仰な台詞だ。なるほど、表題は少しばかり大げさだが、そこは

科学雑誌のこと、新製品の技術については正確にレポートしている。件の新製品とは、サルトン社製の電熱プレート「ホットピザ・キーパー」というらしい。ピザ専用のホットプレートといった風情だ。

記事にいわく、「ピザというのは、食べ進んでも、熱々のままでなくてはならない。この専用プレートを使えば、「最後のひと切れまで、数時間もあいた熱いまま、香りも失われない」らしい。というのも、電熱プレートは「完全なサーモスタット制御」だからだ。実用記事のことである、



もちろん価格も忘れない。「市価14ドル95セント」。いつまでも熱々のピザが食べられるとなれば、けっして高価ではないというところか。

なんの変哲もない新製品と、それを伝える凡庸な科学記事。しかし、この些細なテキストを成立させている言説の枠組みは、けっして些細でも、凡庸でもない。

歴史をひもとけば、ピザは元来、家庭料理だったというよりも、たとえば屋台販売のように、外食用に街路に登場したものらしい。つまりは、いにしえのファストフードだ。だから、ピザをめぐる食の作法も、家庭料理のそれとは違い——ときに立ち食い、ときに出前や配達、ときに間食など——町角や仕事場など公共空間におけるそれを本源とする。プライベートな晩餐などとは違い、食卓に座って食べるのとはちが



った哲理を旨とする。

だから20世紀のピザは、近代都市空間との関係性においてしか語れない。職住接近が崩壊した時代、都市の食は、家庭の団らんを脱し、個食へとむかい、孤食へとむかう。モダンライフの指標として、やむをえぬことかもしれない。

孤独な宅配ピザの愛好家。よしんば冷めたピザであっても、語らいのなかのピザは、また格別だろうに。



上はマッシモさんお勧めの「マッシモッタヴィオ」2800円。厚めにスライスしたパルマ産生ハムが贅沢に盛られる。中央は1番人気の「マルゲリータコンブファラ」2250円。

### いますぐ駆け込みたい、ここぞピザの名店



東京で一番のナポリピッツァが食べられると評判の「マッシモッタヴィオ」。ピッツァ職人のマッシモさんは生地、のばし方、温度の3つが完璧でないと、おいしいピッツァにはならないと語る。生地の材料は小麦粉と水、塩だが、肝となる小麦粉はマッシモさん自らがブレンドしている。発酵して膨らんだ生地は手早く均一にのばされ、具を載せて窯の中へ。この窯も、なんとマッシモさんの自作。水分が多めの生地を約450℃の高温で一気に焼き上げるため、小型で燃焼効率のよい窯を造ったのだ。焼きたての生地は、もちりと弾力がありながら、ふわっと柔らかな食感。噛みしめると小麦粉の旨味が感じられる。マルゲリータのほか、ピッツァは全40種。毎週通うファンがいるのも納得だ。

#### シェフ/マッシモッタヴィオ・ミニクッチ

1970年ナポリ生まれ。ナポリやロンドンのピッツェリアを経て'99年に来日。赤坂や京都で腕を揮う中で「マッシモのピッツァ」が注目される。2011年に自身の店をオープン。



**マッシモッタヴィオ**  
東京都港区永福町4-4-4 モリスビル  
☎03-6802-7648  
※平日11:30~14:00LO/18:00~21:30LO、土日祝11:30~15:00LO/17:30~21:30LO  
※水曜(祝日は営業、翌日休業)

ナポリの伝統を守り、昔ながらの技法で作る上げるピッツァが人気の店。ピッツァのほかにもパスタやリゾット、ローストチキンが評判だ。パーティコース(3000円〜)もある。

### いますぐ駆け込みたい、ここぞパスタの名店



「本場イタリアのバールの雰囲気そのもの」と、昼夜を問わず賑わいを見せる「デルソーレ」。バルとは“気楽な酒場”といった位置付けで、軽いつまみからガッツリ料理まで多彩なメニューが揃っている。なかでもイタリア各州の料理フェア(月替わり/5月はマルケ州)は必食。現地のレシピをもとに郷土色溢れるパスタも登場する。定番パスタも本場さながらでオイルベース、トマトソース、クリームソースなど常時ラインナップ。そもそもパスタとは「小麦粉などを水で練ったもの」。ゆえに、さまざまな形状で種類も100以上。デルソーレではフェットチーネやリングイネ、スパゲッティ、ペンネなどを、合わせるソースに応じて使い分けている。

#### シェフ/口脇俊平

1979年生まれ。「夏場にはバジルソースのジェノベーゼもおすすめです」と、同店でもっともパスタに力を入れるシェフとして知られる存在だ。



**デルソーレ 六本木店**  
東京都港区六本木6-8-14  
Patata六本木1F ☎03-3401-3521  
※月~木11:00~23:00LO、金土11:00~25:30LO、日祝11:00~22:30LO 無休

世界バリスタチャンピオンシップ入賞経験を持つ機山千尋氏によるバル。バンコ(立ち飲みカウンター)が設えられており、食前酒や食後酒を楽しむのにいい。



**Publisher**  
今井今朝春  
*Kesaharu Imai*

**Editor-in-Chief**  
前田賢紀  
*Takanori Maeda*

**Deputy-Editor**  
上岡 篤  
*Atsushi Kamioka*

関谷和久  
*Kazuhiisa Sekiya*

桜井靖人  
*Yasuhito Sakurai*

**Managing-Editor**  
松崎薫子  
*Kaoruko Matsuzaki*

杉本恵理子  
*Eriko Sugimoto*

**Senior-Editor**  
本田賢一朗  
*Kenichiro Honda*

**Editor**  
小野正章  
*Masaaki Ono*

小川太市  
*Taichi Ogawa*

岩井良祐  
*Ryosuke Iwai*

和田史子  
*Fumiko Wada*

小久保直樹  
*Naoki Kokubo*

**Directing Editor**  
土居輝彦  
*Teruhiko Doi*

**Advertorial Editor**  
中山 基  
*Motoi Nakayama*

**Art Director**  
若山トシオ  
*Toshio Wakayama*

**Designer**  
フェイヴァリット・グラフィックス  
*favorite graphics*

**Staff Photographer**  
熊谷義久  
*Yoshihisa Kumagai*

油科康司  
*Yasuji Yushina*

鶴田智昭  
*Tomoaki Tsuruda*

青木健格  
*Takenori Aoki*

宮坂政邦  
*Masakuni Miyasaka*

**Advertising Director**  
坪井一雄  
*Kazuo Tsuboi*

**Production Director**  
小川俊介  
*Shunsuke Ogawa*

**Circulation Manager**  
笹川裕史  
*Hiroshi Sasagawa*

**Print**  
**Dai Nippon Printing Co., Ltd.**

**DTP**  
**Base, Nagi**

**Correspondents, Washington, D.C. Bureau**  
**(Pictorial Press International)**  
**Norman T.Hatch**  
**Mikako Burks**

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>  
モノ・マガジン・ウェブ (mo.WEB)  
<http://www.monomagazine.com/moweb/>  
モノ・マガジン・ブログ  
<http://blog.goo.ne.jp/monomagazine/>

**NEXT**  
次号予告

特集 素材とスタイル、ブランドを  
複合チエツクする！

夏メガネカタログ

ドレスコード対応。大人の背中を占拠する  
デイパツクのハイエンド主義

眠りの質を徹底追求するモノ選び  
快眠モノと熟睡ツール

ご当地傘からスタイル靴まで  
雨の日も心が晴れるレイングッズ

■うーん、うなるモノ■新製品情報■モノ進化論■mono編集部モノ差し、他

モノ・マガジン6-2特集号 No.738  
5月16日(土)発売 定価637円(税込)

●モノ雑誌のバイオニア 毎月2回(2日・16日)発売

**mono**

発行人●今井今朝春

編集人●前田賢紀

発行所●株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

TEL:03(5385)5666[編集部]

03(5385)1350[広告営業部]

03(5385)5701[販売部]

FAX:03(5385)5617[編集部]

03(5385)1348[広告営業部]

03(5385)5703[販売部]

印刷所●大日本印刷株式会社

●編集の都合上、内容が一部変更される場合も  
ありますのでご了承ください。

●乱丁・落丁は送料小社負担にてお取り替えいたします。  
●本文中の価格は消費税込みの総額表示です。  
実勢価格は編集部調べの価格です。